

オオタバコガ情報第5号（ダイズ・キャベツ・キク等）

令和6年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

フェロモントラップの誘殺数はやや多めです ほ場での発生状況に注意しましょう！

本虫については、7月3日付けで令和6年度病害虫発生予察注意報第4号を、また、8月16日付けでオオタバコガ情報第4号を発表しましたが、現在も一部地域で発生量が多いことから、引き続き注意が必要な状況です。

1 ほ場における発生状況

8月下旬のダイズほ場で行った巡回調査の結果、本虫の寄生株率は3.61%（平成1.30%、前年1.83%）で、過去10年で最も高い状況です。

8月下旬のキクほ場で行った巡回調査の結果、本虫の寄生株率は1.00%（平成0.63%、前年0.00%）で、過去10年で3番目に高い状況です。

8月下旬のキャベツほ場で行った巡回調査の結果、一部のほ場で、すでに被害を確認しています。

2 フェロモントラップにおける誘殺状況（図1）

フェロモントラップでは、一部地域で誘殺数が多いところがあります。

オオタバコガの直近1ヶ月の総誘殺数は、豊川市及び長久手市（農総試）で多く、豊田市ではやや多い状況です。

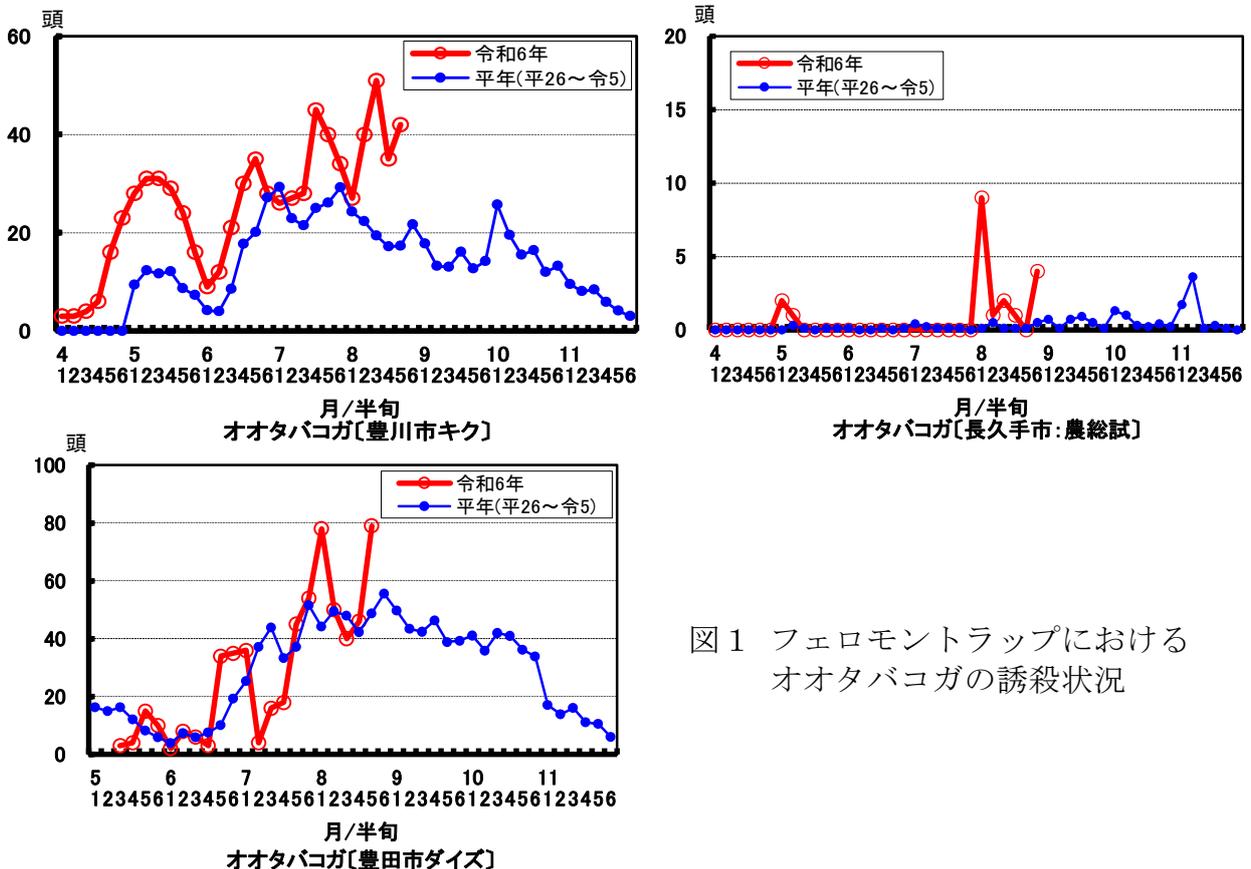


図1 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

3 今後の予測

8月29日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く本種の増殖に適していると予想されるため、**発生量が増加する可能性**があります。

4 本種による被害と防除対策

本種はダイズの莢を直接加害する（図2）ことから、被害が大きくなります。

キャベツでは結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

キクでは着蕾後に加害を受けると（図3）商品価値が著しく低下するため、**着蕾以降は特に注意しましょう。**

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

農薬については、8月2日発表の「オオタバコガ情報第3号（ダイズ、キャベツ、キク等）」を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。



図2 ダイズの莢を食害する老齢幼虫



図3 キクの花蕾を加害する老齢幼虫